

議 事 録

会議名	平成27年度第2回（仮称）寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会		
開催日時	平成27年9月10日（木）午後3時00分から午後5時20分		
開催場所	寒川町民センター 3階 講義室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>< 委員 > 梅村仁（委員長）、近藤祐幸（副委員長）、豊田大知、鈴木潔、矢野覚、豊田敏樹、西郷公子、前田久子、牧戸雅子 （欠席者） 斉藤正信、金子一茂、矢澤茂、佐藤清、糸野靖男</p> <p>< 事務局 > 企画政策部長：石井宏明、企画政策課長：深澤文武、企画行革担当副主幹：青木裕昭、同主査：吉田史、三澤忠広、吉田慎也、同主任主事：遠藤孝、鈴木俊輔</p> <p>※ 傍聴者7名</p>		
議 題	(1) （仮称）寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の各取組状況について (2) 寒川町人口ビジョン（案）について (3) 総合戦略の基本的目標と方向性について		
決定事項	議事-(1) （仮称）寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の各取組状況について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】 議事-(2) 寒川町人口ビジョン（案）について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】 議事-(3) 総合戦略の基本的目標と方向性について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	

議事の経過	<p>○ 開会 議事までの間、石井部長が司会進行</p> <p>○ 議題（議事進行：梅村委員長） （梅村委員長）議事録承認に委員の承認ですが、名簿順で今回は斉藤委員にお願いしたいと思います。 議題1（仮称）寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の各取組状況について事務局から説明をお願いします。</p> <p><事務局から（仮称）寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の各取組状況について概要を説明。></p> <p>（梅村委員長）説明が終わりました。報告事項の中で質問がありましたら挙手のうえご発言下さい。最初に私から質問したいのですが、今後の取組予定で地方創生のアイデア募集でやわらかい段階という説明がありましたが、どういう段階ですか。</p> <p>（事務局）町で行っているパブリックコメントはある程度固まった段階で意見をもらいますので、頂いた意見を反映できにくい現状があります。まだ総合戦略として何をやるかが具体的に決まっていない段階で、方向性だけを示す柔らかい段階で具体的な意見をもらい、それを元に総合戦略を作成していきたいという意味でやわらかいという段階です。</p> <p>（梅村委員長）今の説明で前田さんや牧戸さんは分かりますか。</p> <p>（前田委員）やわらかい段階というのはイメージとしては湧かなかったんですけども、今までのパブリックコメントは、会議で決めた計画に沿った内容を出そうというパブリックコメントだったと思うんです。その前に決めてないから新しい意見があれば出して下さいという感覚で、それを踏まえた中で、計画を私たちが考えながらやっていくというくらいの、中間の段階で出すという考えかなと理解しました。</p> <p>（事務局）総合戦略の事例でいきますと、これから総合戦略の方向性を確認頂いて、その後主管課とヒアリングをして、この方向性でこういう事業をやっていきますというようなものを出して、パブリックコメントをやるのが通常の流れです。そこの事業まで出さずに、この方向性で何かを考えて行きたいという段階で出すことでやわらかい段階という意味です。</p> <p>（前田委員）なかなか難しいかなと思います。その段階で出して、ある程度の例題を出してくれて、それに対しての考え方を踏まえて、こういう風にした方がいいのではないかなという方がいいのではないかなと思いました。今</p>
-------	---

のやわらかい段階とは違うんですが、この資料を読まして頂いていて、これはいつも私たちが考えていることだなというものがあつたんですね。それを読んで、だったらこういう風にできるのではないかと、発展できるものがあるのかなというふうには思ったんです。

(事務局) 資料番号の3-2をご覧ください。例えばそこにある基本目標1子育て世代が安心して子どもを生み育てやすい環境をつくりますという方向性を出しています。本来であればこれについては、こんな事業をやっていきますという計画にしてパブリックコメントを出すという形をとっていました。なかなか意見がもらえないという課題がありました。事業まで堅く決める前に、この子育て世代が安心して子どもを生み育てやすい環境をつくりますという方向性のみ示して、この方向性に沿った事業は一体どんなもので、こういうことをやった方がいいのではないかとというようなご意見も多く頂けるのではないかと考え、やわらかい段階で行わせて頂きたいというものでございます。

(梅村委員長) 地方創生なので地域の声を聞こうとされていると思うのですが、これをだしてどれだけ返ってくるか。やわらかいというならば体育館でやりますよと、2時間やってますと、人が来たら説明する。パネルディスカッションのような。何項目もないのでその場で説明し意見をもらうなど、やわらかいとはそういうことではないのかなと。丁寧に市民の声を聞くという形。地方創生では今回、急いで作っていて国のスケジュールに併せていて、意見聴取の仕方が非常に雑だと思います。寒川町は小さい町ではないですが、集まりやすい町だから、特徴を出してやっていくとおもしろいんじゃないかなと思います。

企業ヒアリングのまとめで、企業との連携で場の創出というのがあるんですが、場というのは寒川町ではどのような感じですか。イメージとしては定例的に勉強会が月1回あるとか、コーディネータさんがいてフランクに2時間過ごすなど、そこから何か始まっていくような場が企業さん同士であったりするのが一般的なんですけどあまりありませんか。

(近藤副委員長) 労働組合としては、その地域の企業さんと年に1回意見交換をしています。広い地域では藤沢、茅ヶ崎と情報交換の場はあります。

(事務局) 企業ヒアリングで色々な企業を回りましたが、部門ごとの繋がりはあるようですが、異業種交流などが無いという状況です。金融機関さんであれば、取引先の中で集まることあるかもしれませんが、企業同士のマッチングを行政が仲介をするのはなかなか難しいということがあります。直接お会いするのが一番効果があるということで、情報交換をしながら、自分の持つノウハウなど色々な場面で情報交換するような場を作ること

で、その先に見える企業間の連携を促進していきたいと考えています。これを定例的にするのは企業さんのニーズを確認しなければならないと思いますが、一つの企業支援のあり方のパッケージの中で、場の創出を整えながら次につながる支援をその中で生み出すこともあると思いますので、そういった部分を創出していきたいと考えています。

(鈴木委員) 文教大学の地方創生プロジェクトでは、若い人の考えがよくのっけていて、こういうことを考えているのかと、大変ためになる資料でした。子どもたちが将来どんな職業に就きたいか考えたときに、私は農家なので子ども時代は家の手伝いで稲刈りなど手伝ってもらった。今はサラリーマンの子どもたちは、何の仕事をしていいのかわからないのではないかと。寒川町には色々な企業が来ているから、ここではこういう仕事をしているという、社会見学で言うことはあるとは思いますが、振り返ってみると私は農家の跡取りで花を作るのが好きでしたから、今現在花作りをやっていますけど、それで今学校の生徒たちが来られるとき、生徒たちと話をさせてもらおうと、両親は何の仕事をしているか聞くと、農家とは一切縁のない方もいるし、おじいちゃんおばあちゃんが農家やっていますという子もいる。農家というのがどんなものなのか分からない。来て初めてこういうことをするんだと、話をさせてもらおうと私も楽しいし、子どもたちも興味を持ってくれる。子どもたちが興味を持てるようなことが、将来寒川町にこういう仕事があると分かれば、こういうところに勤めたいとかあるんじゃないかと。仕事を見る機会が子どもたちにも必要なかと思うんです。文教大学の生徒さんたちが作った色々な案があります。参考になることも多くて、こういうことが実現できたらいいなと。それは行政のバックアップもなければ実現もできないでしょうし、最終的には議会の承認を得なければできないでしょう。この場に議員さんが入っていてもいいんじゃないかと思うんです。我々の気持ちはこうなんだと、だから将来こういう案が出たときにそれをバックアップしてくれるような形にして頂けたらもっと実現性が出てくるかなと思います。

(事務局) 子どものうちから仕事に対して将来の夢を持つということは必要なことだと思います。どういった仕事に就きたいからどういった勉強をするんだという意識にもつながるのではないかと思います。平成24年から地域の先生という制度を作りまして、学校に地域の創業者、農業者、議員など色々な先生を招聘しながら、お話をする機会をつくっています。具体的な使い方としては、学校の勉強の補充に使っていたり、学校の特色にお任せしているところもありますが、今言われた部分についても、教育委員会にもやって頂けるようにお話しします。また、企業ヒアリングをした中では、

子どもたちが将来どんな仕事に就きたいかの参考となるように、企業さんの工場見学など、寒川にどんな会社があるのか知って頂くことで、企業さんの操業環境を両親を通じて理解頂くこともできますし、お子さんの将来の職業に対する夢というものも育むこともできると思っています。地方創生を契機に将来の仕事に対する夢を持てるような子どもを育てていきたいと思っています。

(梅村委員長) いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では続きまして議題(2) 寒川町人口ビジョン(案)について事務局より説明をお願いします。

<事務局から寒川町人口ビジョン(案)について概要を説明。>

(梅村委員長) 今の説明につきまして、ご質問ご意見ございましたら。

(矢野委員) 将来の寒川町を心配するようなレポートで、危機意識を共有する意味ではいい資料だなと思っています。今後策定するにあたって、総花的につくっていくのは大変なことだと思うんです。全部やればできるにこしたことはないですけど、施策を実行する資源も限られているので、優先順位を付けていかなければいけない話だと思うんです。まち・ひと・しごとの優先順位は仕事が先ではないかと思っております、子育てもやらなければならないし、住みやすい場所、子どもたちが将来夢を持つ町というのがなければいけないというのは分かるのですが、町の強みとして製造業の付加価値が高い企業が多いというのも分かっていますが、圏央道が通ってインターが2つもあり、将来的には新幹線の駅が来るかもしれないというもあります。将来的にはまだまだ発展が見込まれる町というのも優位性だと思いますし、ここを活かしていく必要があると思います。私の仕事としても創業支援もやっていかなければいけないと思いますし、事業承継についてもアドバイスしていかなければいけないと思います。施策を実行していく必要があるかと思いますが、優先順位を付けなければ全部はできないのではないかなと。その中では、しごとの雇用の創出が順番の始めに来るのではないかと思っています。現状4万8千人が4万4千人という絵を描いて頂いていますけれど、これをやるのは相当大変だと思うんです。限られた資源をどういうふうに優先順位を付けていくのか。それには我々もやれることはお手伝いしていきたいと思っていますし、そのためにここにいますので、どこかで優先順位は付けていく必要が出てくるだろうと思います。

(事務局) この計画の実行の肝になろうと思います。限られた資源しかありませんので、どこを重点的に選択と集中をかけていくかということになろう

かと思えます。委員の言われるとおり、産業は将来に対して大きな資源になります。どこが優先かという我々としては、既存企業の流出を防止しなければならない。限られた町域で企業誘致というのは、土地の用途上難しい部分もあるのですが、国としては東京圏から地方に移転をさせようとした動きがあります。今ある企業を守っていくというような作業がまず一つ。それに併せて新しい企業創出、創業支援をしなければ、企業については、創業期から衰退期までライフステージがありますが、継続するのは難しいということがありますので、新しい企業を生み出していないと町の衰退の原因になってしまうということもあります。そこで得る資源を他の施策に転用するというのが本来の王道なのかなと思ってございます。もう一つ通勤として茅ヶ崎から寒川に来ている方が多く、企業さんを回ると従業員数の11%~30%は町内にお住まいの方で、70%位の方は町外から寒川にお勤めに来ているということになります。持ち家率を見ますと、持ち家でない方の率もかなり高いということもありますので、土地価格の安い状況も優位性と捉え、職住近接を支援していく必要があるということで、人を呼び仕事を生むのが最善の策であると思ってございます。委員が言われたように仕事がないと人が来ないとなりますので、そこは積極的に支援していきたいと考えています。これまでも金融機関さんに役割を担って頂いていますので、今後につきましては、役場と金融機関が連携しながら、事業承継などに対応できるように金融機関さんと相談して地域全体で企業を育てるような対応をしていきたいと思えます。

(豊田(敏)委員) しごとづくりの部分で意見を述べさせて頂きたいと思えます。人口ビジョン案の創業数の比較のところ創業比率の推移表があります。神奈川県で約2ポイント創業比率が減少している。国では約3ポイント落ちている。寒川町は0.2ポイント程度しか落ちていないところが見て取れましたので、寒川はまだまだ希望が持てるというデータを見て取れました。まとめにある今後は町内での起業を促すような施策の推進が課題となると、まさにこのとおりではないかという中で、寒川町で起業しようとしている人に対して、私どもでは事業計画の作成のお手伝いや、調達計画のアドバイス、各種補助金制度のご案内や申請手続のサポートも行っています。さらには金融機関の本業である資金のご融資まで至る包括的なサポートを現在も行っています。しかしながら寒川町においては相談件数が多くない状況があります。原因としては、起業そのものが多い少ないというところがあるかもしれないですが、起業したいけれど補助金の制度を知らない。または各種支援制度があることを知らない、知っていてもどこに相談に行っているのか分からない。相談窓口は分かってもハードルが高くて入

っていけない。そういったことで躊躇したり、あきらめてしまう方も結構多いのではないかとということで、相談の入口の間口を広げて起業しようとする人が、相談しやすい仕組みをつくるべきではないかと感じました。イメージとしては、この入口から入れば自分が進みたい道筋が分かる。起業に関する情報は全て詰まっている。言ってみれば情報の観光案内所みたいな窓口で、人がいてもいいですし、パソコンで入っていける仕組みでもいいですし、こんな仕組みがあれば町内で創業しようする方の起業を促す手助けになるのではないかと感じました。もう1点は、起業数はそんなに多くないと思いますので、既存の特に中小企業に対しても支援体制をどうするかという問題があります。これにつきましても、ものづくり補助金制度など実際にご案内しないと制度も複雑なところもありますので、金融機関の方でそういったこともご案内できますし、申請のサポートも行えます。販路拡大に関しては、ビジネスマッチングなど先ほど場の話もでしたが、そういった場のご提供もお力になれるところではあると思います。後は金融機関の本来業務ですけれど、経営コンサルティング業務、問題解決のための専門家派遣の制度が今ありますので、取り次ぎご案内などできると思います。既存企業さんに対しても、創業をされる方の窓口とともに、既存企業の入口をつくってガイドしてあげるというようなものがあれば、創業や既存企業へも迷っている方へ対して具体的にガイドができるのかなと感じました。

(矢野委員) 企業ヒアリングを10社程度行ったとありました。私どもも寒川町の主要な取引先と取引がありまして、町と相談して進めていることなんです。意見交換会を企画しています。そこは何かを決める場所ではないんですが、うちの取引先の皆さんにその話をしましたが、皆さん前向きに捉えて頂いて、こういう国レベルの動きの中で自分も参画したいという意識があるのだなと思っていますので、まずは始めて、機会があるならば何かやりたいなと思っているのが今の状況です。もう1つ色々施策はあるのですが、寒川町は岩盤規制が強いのかなと思っています。門前町にしても何にしてもそうかもしれません。色々な策をボトムアップで積み上げていったとしても、必ず岩盤規制があって打ち破られるというのが歴史ではないのかなと。これは町レベルでは難しいのではないのかなと思っています。国県レベルで岩盤規制を、例えば調整区域を市街化に変えるなどドラスティックにやらないと、やれば変わってくる話は絵が描けるはずなんです。今できなくてもいいのですが、提言には盛り込んでいった方が私はいいいのではないかと、町の人が皆さん思っていることではないかと思っています。

(梅村委員長) 各委員から案に近い話が出ておりますので、このまま続けさせて頂いて、人口の話は最後にまとめていきたいと思っております。今お話を聞いて出ました産業施策は、私は外部評価の委員長もやっておりますが、町の産業振興策は正直ほとんど無策に近い。今仰っていたワンストップサービスはどこでもやりたい話です。あるいは意見交換の場づくりだとか、実際そのようなお話があるのでしたら、行政の施策の中に協力機関という形で入れていく。自治体の政策としてこれまでない形だと思うんです。今回の地方創生の審議会の中から発案があって施策の新しい形ができそうだなと。もう一つは、政策では集中という話があったと思うんですけど、お金も人もない中で、お互いできることをやっていきたいと思いますという雰囲気は非常に大事かと思っております。

(前田委員) 小さい話になって申し訳ないですが、手作り品を企業がコーナーを作って町の方たちが色々なものを作ってやっています。今シャッターがおりた商店街があって、そういうところを使いながら、まだ起業までは行かないけど、自分が作ったものが受け入れられるかとか、そういった確認しながらできるといえば、高齢者の方も私もできるから作ってみようとか、気持ちが向上していくような、ブースをいつも作っておくと、自分達でやっていこうと、町を活性化しようという気持ちが出てくるのではないかなと。今色々なところで別々にやっているのがあって、もう少し大きくするなりしていけば、気持ちもここに持っていけばみんなに見てもらえるんだなということができる。大きな製造業とかそうではないのですが、細かいところにも目をかけながらやっていったらいいのではないかなと思っております。

(梅村委員長) 例えばチャレンジショップみたいなものですよ。今少し、しごとの話が出ておりますので、この辺に集中してお話を進めていきたいと思っております。

(西郷委員) 仕事の関係でいうと、学生さんの中の意見で住ませ隊というのを作ったらどうかとのことで、私は小田原の前は川崎の総局長をしていたので、川崎もワンストップを熱心にやっているのですけれど、日本政策銀行、金融公庫、川信、横浜銀行、商工会とか入ってですね、相談会とか見本市、創業支援やりますとかやっているのですが、やらないよりやった方がいいと思うんですけど、本当にワンストップになっているのか疑問もあって、企業アンケートを見ると、意見が有りそうなので、行政も繋ぐような仕事をさせたいみたいな、行政ではなく商工会とか観光協会とかというところもあるかもしれませんが、そういう所で人材を当てて新しいニーズとかマッチングとかできる方を置くようなシステムがあると、コンパクトな町だ

と機能するのではないかと思います。しごとと直接ではないのですが、このアンケートを全部読ませて頂いて、一番はみんな言いたいのは交通のことだなという感想を持ちました。学生さんたちも、住民のワークショップの方たちも言っているし、企業も交通が便利だと言っているところもあれば、すごい不便だと言っている企業もたくさんあり、産業にも良い、子育てにも良い、高齢者にも良い交通インフラをどう構築するかで相当違うのではないかというのが私の感想です。先ほど先生が言ったみたいに、手法は分からないですけど、参画して作り上げる方向。コミュニティバスとかだって全国でやってますので、そういうことを含めて。そうじゃないといくら住んでもらっても子どもの通学どうするのとか、色々なことに波及します。何処か住宅、例えばダブルケアの子育てもしながら介護もしなければならぬ人たちに、シンボリックな住宅地を作って、そこに商店街もあって、そこを面にバスを回せるような、そういうイメージを持ってやると、しかもそれが、スイトピーの花畑に囲まれているとか。開成町では出生率も高くそういうことに成功されていて、富士フィルムの研究所を誘致し、あじさいの町として完璧に売り出し、そうすると神奈中も儲かるからあの辺を走り回るバスをいっぱい出していますよね。ネットワークで解決するような交通施策をやると。力はまだいっぱいあるんですね。みんなこれだと良いよねというのをやると、住みやすそうだよということになると思います。

(梅村委員長) めちゃくちゃいいことを言いました。ネットワークで解決するのはなかなか無いです。自治体がお金出して人出してやる時代ではないんですね。地方創生はこれから人口をどう持っていくかという話で、4万人を維持していこうというのは結構厳しい数字だと思ってますけども、そのためにはということでしょうね。農家と交通はどうですか。

(鈴木委員) 今雇用の関係で運転手さんが少ないんです。東京に出荷する場合、運転手さんに頼んでいるんですね。運賃がだんだん上がっていつている。交渉したりはしているんですけど、寒川の農家は地方の農家と違って規模が小さい。そうしますと出荷する量も全体としては少ないです。どうしても運転手さんは効率を考えます。ここまで行くだけの燃料代、手間を考えると合わないという交渉になってしまう。交通のインフラというのは重要です。交通の便というのはあった方がいいですよ。先ほどの岩盤規制では私は観光協会の副会長をやらしてもらっていますので、門前町構想ということでやっています。結局は規制があるがために行政側は無理ですよ。それに向かって何かをやっていかなければ、なんでも進んでいきませんよ。今農用地促進協議会というのがありますが、農用地は守ってい

かなければならないというのは私も農家ですから思います。現実に後継者がいない農家、高齢化した農家の方たちが農地をもてあまして中にはいます。そういう方たちが例えば門前町構想があるのだったら、そこを提供して何かできないかと。それが現実問題としてなるかといえば、岩盤規制があつてなっていない。また、定住促進でも言われるように、寒川町の市街化で空いているところがいっぱいありますけども、なかなか家は建たないです。農家で空いている土地があつても、それを手放そうとしない。将来相続税が来るときのために取っておくと。そこまで持っている人が多い。何処かで相続があると、そこで建て売りが建ってくるという現実があります。もう少し規制は緩めてはいいのではないかと。けれども農家がやっていくにあたって、弊害を及ぼすような開発はしてもらいたくないという意見としては出したいと思います。計画的にやるのだったらもっと柔軟に対応していいんじゃないかなと。それがまちの活性化になるのだろうし、税収も上がるでしょうし、そこまで考えてやったほうがよいのではないか。さがみ農協の管内は都市型農業。土地利用型はほとんど少ないです。ここでは、田んぼをまとめてやろうと思ったって途中で家があつたりできないわけです。国は強い農家を作ろうと言っていますが、全国全ていくかという、そんなことは絶対無いですよ。強い農家は当然あつていいですけど、残った農家がやっていけるような形を作っていかなかったら日本はもっと疲弊してしまうのではないかなと。もう一つは人口ビジョンですけど、子どもが増えなければ将来的にはなかなか。今難民が多くてアジアでも受け入れるように世界でも言っているんですけど、はたしてうまくいくかどうか分かりませんが、労働力というものは、人口推計を見てもいずれ不足してくるのだろうと。そういう時に同じ人間だからどこの人でもいいじゃないかと思うんですけど、世界中で人種の問題とかで色々なことが起こっていますよね。そういうものをあえて入れていいのかなとも思うんですけど。もっとわかり合えることができないのかなとも思うんですけど。

(梅村委員長) 人口はそうですよね。新たな労働力の観点も必要かもしれませんね。

(鈴木委員) それと出会いがないと、農協としても出会いの場を作って、少しながらもマッチングできてうまく成婚までいっている成功例もあるので、出会いの場を作るっていうのは、地方では町コンをやったりありますから、農業後継者の場合なかなか出会いがないということもあるので、そういうこともやることも大切かなと思います。

(梅村委員長) 次に青年会議所の豊田さんにお伺いしたいのですが、寒川町の

創業マインドといいたまいますか、雰囲気はいかがでしょう。

(豊田(大)委員) 今人口の問題は労働力が一番ネックです。海老名はららぽーとを作ると人口が増える聞いております。当社としても外国人を雇うという案も出てきています。そうすると人口を考えた町もどんどん取り入れても良いのかなと思います。圏央道ができて田端は素晴らしい立地なのですが、開通と同時に動いてほしいところなんですけども、町の対応が遅くて開発が進まない。来たい企業がいっぱいあるわけなんですけども、町に相談しても今はできませんということで、スピードが遅いことでチャンスを逃している。何千人来ている可能性もあるということで、まず行政の中の判断をスピーディーに動いて頂ければ活性化になっている現状もある。一般企業との温度差と時間差をすごい感じます。

(梅村委員長) 牧戸さんどうですか。

(牧戸委員) 出て行かないようにするためには、小さいときからこの町が好きで、ここにこの仕事があるから働きたい。選ぶ時点で、高校以上がないので外に出てしまって、あれもこれもあるけど、それより前の小学校や中学校や幼児でもかまいませんし、色々な仕事があって体験ができたとか、夏休みの期間に色々な企業がこんな仕事をしているところがあるんだとか、見学できたりすれば、子どものイメージも湧くでしょうし、そこからここに帰ってきたいとか、ここは住むにはいいなとか。山も海も近いですし、環境的にはすごくいいし。最近見ると圏央道ができたので外から来てらっしゃる車のナンバーをたくさん見ることがあるんですけど、その方たちが、ここは子どもを育てるにもいいよねと思ってくれる何かがあれば、そこから発展することもできるだろうし。漠然としたことなんですけれども、ここ通ったときにあれあったよねって思えたりして、子どもがそこ良かったからまた行きたいねって思えるような町になっていたり、魅力になる何かがあれば、一つでも魅力のあるものがあれば、またここに行ってみたいと思うでしょうし、仕事に関しても、これをやってみたいと、それこそお家は会社員だったけど、ものを作るっていいなとか、やってみたいなと思っててもその窓口はどこなんだろうと、考えることもできないので、そういう流れじゃないですけど、もうちょっと具体的に分かっていくと、仕事につながるのそれは人が流出しない、まちの活性化にもつながってくるのかなと漠然としていますけどそういう風に感じました。

(梅村委員長) ありがとうございます。少しお時間頂いていいでしょうか。島根県の海士町をご存じでしょうか。隠岐に4つの島があり海士町という所があります。ここは2千5百人くらいのうち移住者が10%いるんです。元々産業振興をがんばっているんです。移住者の人たちが何かしたいと言った

ときに、町が全面バックアップで公共施設を作る。作ったから一生懸命やるんです。仕事とイコールだから雇用が繋がっていく政策をやっているんです。非常に小さい町なので寒川町のモデルにならないかもしれないですけど、政策イコール産業振興政策イコール雇用の図式ができていますので、地方創生のモデルと言われています。もう一つこの特徴なのは、県立で島前高校があって、移住者が何を求めているかという、仕事はある、将来を考えたらどうしようかと思うと、高等教育を受けれる大学に進学できるような教育レベルの高い高校を求めているとなっていて、ここでは10年前は大学進学はしていなかったんですが、大学進学するなどレベルが上がっています。元々海士町の人には松江などに渡ってお金払うじゃないですか、子どもを手放して、そういった負担は大きいし、地元で育てて返ってきてほしいということで。今産業と教育の魅力の向上が非常に繋がってきているのが地方創生のモデルになってきていると思っています。この高校は、公立の隠岐国学習センターという町が作った塾があります。高校の下に塾があります。非常に魅力的な町で、そういうことをすることによって地域力が上がってきていて、高校生にインタビューすると町に帰ってきたいと。この高校は80人の枠があって50人が島の枠で30人が島留学の枠なんですけども、島留学の枠が3から4倍くらいです。聞いていたらついに昨年中学校3年生がお母さんと引っ越してきた。そこまで人気が出てきています。選択と集中の中で、産業振興と教育で非常にがんばっている。一方福祉とかは財源がないのでレベルは落としています。町民の方に理解を求めてレベルを落とす。今回の地方創生もそうですが、施策のあり方もそうで、どこかに集中したり、この会議の中で議論してもらおうと思っています。

その資料の説明をお願いします。

<事務局から総合戦略の基本的目標と方向性について概要を説明。>

(梅村委員長) 今回の基本目標が4つありますが、この中の施策案が書いてありますが、これにつきまして各委員から意見を頂いて、この施策そのものの素案を出して頂けたらいいのではないかと思います。先ほどの続きでも結構です。

(矢野委員) 国が示して、同じような枠組みで示されると、その枠組みで作ってしまうのは、旧態依然のやり方だと思うんです。今回の地方創生は、国がやりなさいと落としてきたのが今までのやり方ですけど、それでは立ち行かないからボトムアップでみんなが考えたものを上げてきなさいとい

うのが、今回の地方創生のスタートラインだと思う。と言っても枠組みを示されるとこの枠組みで何か作らなければいけないかという感じになってしまいますのも分かります。この子育てを最優先に出したというのは、町長の姿勢を反映してるのではないのかなと。先ほどしごとが最優先ではないかなと思ったのは個人的な意見なので、最終的には皆さんの総意で優先順位を決めるべきだと思います。そもそも地方創生は、みんなが考えたことを上げてきて勝負しましょうということですから、今皆さんが考えていることを積み上げて行くべきもので作るべきかなと思っております。優先順位は寒川町としてどこが一番最初かというのは考えた方がいいなと思います。そちらの町が2千5百人で4万7千人でもそんなに大きい町ではないので、形としては作りやすい。何十万人、何百万人の街ではオペレーションが難しいので、丁度いいサイズかもしれないなと思っています。

(梅村委員長) 今のお話を聞いている中で、順位はそうだと思います。産業のまち寒川にするのか、子育てにするのか、一番が町カラーになります。子育てというのが多くの町でやっていこうとしていると思うのですが、敢えて違う形にしてもいいのかなと。ただそれだけでは説明が付かないので、少し仕事を出しながら総花的な言葉を入れて何か作っていくのがおもしろいのではないのかなと思います。事務局に聞きたいのですが、これを作った中で内閣府に持っていく時に、形式的な意見とか指示とかはあるのですか。

(事務局) 基本的には町の独自性を求められていますので、人口ビジョンでも県下でも50万人増やすという話もありますが、割り当てがあるわけでもないですし、町の特性で作って結構ですということで、特段の縛りはありません。ただ、最終的には補助金を受けますので、そこにはメニューがありますので、その辺の所も考えますが何かに制約がかかるということはありません。どういったことをやるか、将来目標指標を達成するための手段ということであれば、特段制約はないと思っています。

(梅村委員長) 資料の人口ビジョン案27ページで、細やかな支援とか、切れ目のない支援とか、こういうのは本当にできるのかなと。地方創生ではよく言っているのですけれどもできるのかなと。先ほどネットワークの話もあったと思いますが、やろうと思うなら行政だけではなく、町の中全体でやっていくシステムを作っていく必要がある。それを調整するのが町役場の仕事だと思っていて、ぐっと繋いでいくような。そんなことをこの地方創生の中でやっていくのかという話なんですよね。企画部門だけでできる話ではなくて、総合的な、役場として総合力が試されると思うんですね。これは議会も含まれる。議会の方も一緒になってやっていく、お互いのネッ

トワークを繋いでいくということが必要ではないのかなと思います。

基本目標1から4までありますので、この中でご意見頂けたら。

(西郷委員) 子育て支援とみんな言っていますが、それをみんなで競い合うという状態になっているような気がしてならないのですが、それは違うのではないのかと、地方の立場からすると財源がないのに、国に言われて競わされているような気がします。国は一極集中是正とか言っていますけど、人口ビジョンにも東京圏から地方転出4万人増、地方から東京圏転入6万人減、神奈川県はどこかといつも思うところで、少し変ではないかと思っています。その点についてどう整理されていますか。

(事務局) 子育ての競争の話ですが、子育てをどう見ているかというのは、二面性があるのですが、今いる町民の方々に対する子育てで、子どもを産み育てやすい環境を作ることが必要であると。もう一面は町外から見た子育てですが、我々からすると子育ての世代を狙っています。先ほど通勤の方が町外から寒川に来られています。税金を納めている方は主に生産年齢人口になりますので、そういった方々は主に子育て世代で、子育てをしやすい町ということで生産年齢人口を呼び込みたい。求めているのは生産年齢人口の確保です。子育てしにくかったり、教育力が低いところには行きたくないや住みたくないという親の願いを的確に捉えていきたい。寒川町が他と比べて住みたくない町にならない、選ばれる町になるためには、子育てというのは必要であると思っております。寒川町については、競争相手は近隣であると明確になっていますので、そこをターゲットにしていきたいと思っています。先ほどの雇用の問題も、生産年齢人口をどうとるかというところで考えていきたいと思っています。寒川がどこの位置なのかということですが、神奈川県については東京圏でございます。地方に移転される側います。流出防止策をとらなければならないということになります。大きな視点でいくと東京圏ですけれども、ミクロ的には人口が少なくコンパクトな町ということで、まだまだ可住可能エリアがありますので、大きな点では地方に取られる立場にありますが、このエリアの中では、吸い取る側の立場にあると思っていますので、転入促進で受け入れる余地がありますので、生産年齢人口を確保していきたいと思っております。

(西郷委員) 県下で取り合うと聞こえましたが。

(事務局) マクロ的には流出防止、ミクロ的には流入促進になるのかなとは感じております。

(梅村委員長) 人口は日本では縮小社会に入った中で、あまりそういう観点は見えてこないです。国は小さくなっていく、圏域、公共施設の様々な役割が変わってきていると思うのですが、人口も4万8千人で最終的に4万4千人

であり減っていない。全般的には普通に考えて小さくなるはずなんですけど、そういった考え方を出してもいいのではないかと思っています。寒川町はコンパクトシティですよ。地方創生のモデルの中で、取り合ったり、出生率を無理矢理高めていこうというのではなくて、実際に維持できる数字がきっとあると思うんです。町の方で色々あろうかと思いますが、もう少し町そのものの時勢を見た中で本当の姿を表してくれる方が、町民にとっても将来が描きやすいのではないのかなと。実際にある出生率1.6、1.7、2.07はほんとは行くのかなと思います。

(事務局) 今現在はかなり難度の高い状況になっていると思います。今の4万7千人が適切なのか、若しくは3万6千人ではなぜいけないのかということは、当然あると思います。今住んでいる方、これから転入したいという方々が見て、町に住みたいとなる、自立可能なまちづくりが行われているかどうかだと思うのです。そういった施策を打っていくか、魅力を感じる施策がどれだけあるか、町民の満足度になろうかと思っています。今回の地方創生の中で議論を深めていかなければならない所だと思います。内部でもこの数字で良いのかということもありますので、雇用、子育てについての議論が進む中で、将来寒川町が確保すべき人口がどこにあるのか十分議論したいと思います。皆様からもご意見を頂いてどうあるべきなのかということも、議論を頂いたうえで持ち帰りたいと思います。

(梅村委員長) 人口に戻りますけど、シミュレーションの説明があったと思うのですが、皆様方でご意見などございましたらお願いします。

(鈴木委員) 現実に縮小した場合、人口が減ったら全体のパイが減ってしまうので、取り合いが大きくなると考えると、ある程度の人口は確保していかなければいけないのではないかと。そのための努力は必要なのではないかと。世界を見れば人口が増えるみたいで、発展途上国でもっと増えれば食料も不足してくる。農家としたら食料を海外に輸出したりということもありますけども、現在生活していくうえで、将来が先細ってしまうかたち。寒川に企業はいっぱいありますけど、その企業が立地していくのに足りるだけの、国全体の人口というのも必要ではないかなと。縮小社会に向かって行ったとしたら、それをどこで補うのか。画期的な新しい経済の方向に行ったら普通に暮らせる社会になるかもしれませんけど。

(豊田(敏)委員) 人口は減ってはいけないと思います。増えなくても維持されていくということが大事なのかなと思います。寒川町人口ビジョン案16ページの住宅地の価格の比較というのがございます。議論の流れとは外れてしまうかもしれませんが、ここに公示価格の住宅地地価の平均分布がございまして、寒川に通っている方は茅ヶ崎在住の方が多いというデータ

もあります。寒川と茅ヶ崎で比較してみると、平均価格で寒川は㎡12万5千円で茅ヶ崎は㎡19万5千円。ものすごい差です。㎡7万円です。標準的な戸建ての土地の面積は約30坪100㎡です。100㎡に直しますと700万円の違いが出てきます。700万円です。どれくらい違うのか試算したデータを持ってきたのですが、例えば寒川の平均価格で30坪の土地を買おうとすると、約1,200万円。茅ヶ崎の場合は約1,900万円出さないと買えません。35年でローンを700万円多く組んだ人は、毎月元利金で2万円多く払わないといけなくなります。それと茅ヶ崎で買うのと同じ予算で寒川の土地を買った場合広く買えます。どれだけ広く買えるかという、1,900万の予算で47坪買えます。約56㎡多く買えます。56㎡という幅5.6m長さ10m。幅5.6mの道路が10m分自分の庭になるということです。住宅地の標準的な道路は幅4mです。幅5.6mという6m道路に近いかなり広い道路になります。それが10m分自分の庭になるということです。30坪の土地に家を建てると、車を置いて自転車を置いていっぱいいっぱい、17坪余計につきますと、ちょっとしたお庭ができます。車2台3台おけます。月極を借りると5千円余計に負担しなければいけないです。寒川に同じ予算で家を買うことはそれだけの大きい家を買って、同じ坪数で買えば負担が少なくて済み、教育費に充てられます。

(梅村委員長) それは、このままの現状維持で町の全体の価値はこのままでいいということでしょうか。

(豊田(敏)委員) 土地が安いという現実があります。安いというのはいいことではないのかもしれませんが、逆にそれをメリットと考えて、同じ予算なら寒川に来て下さいと、こんなにいいことがありますよと、もっとPRできないかと。寒川の人口を増やすのであれば、茅ヶ崎の方にPRして、茅ヶ崎でまだ持ち家を持っていない寒川に勤務している方々に、企業さんを通じてもっと寒川をPRして寒川に持ち家を持ってもらったらどうでしょうか。というところを施策に入れられないかと考えています。

(梅村委員長) ほかにいかがでしょうか。

(近藤副委員長) 私は寒川町の企業に働いてまして、新入社員20名から30名地方から入ってくるんです。寮も社宅もありますので一端寒川町の住民として町民になるのですが、入社して数年経って結婚して、子どもを産んで家を建てようというときに、出て行くケースが多いです。元々寒川育ちで会社に入った連中は寒川に家を買いたがる傾向があるのですが、色々なところから来た方から見ると海老名の方が利便がいいとか、茅ヶ崎の方が東海道があるとか、海があるとか色々なことをいうんですけど、寒川町の魅力を発信するうえで、土地が安いというのがありますし、環境という

のは、町には突出する観光資源はなくても、地方から見ると有数の観光資源の中心的位置にあるわけです。そういった所もアピールしていくことで、家が広く住めるとか、自然の環境もあるということで魅力的な町になるのではないかと思います。町施設を作るとか立派な病院を作るなど難しいと思いますけど、住むという観点から見ると非常に住みやすい地域というのをもう少しアピールしてもいいのかなと思います。

(矢野委員) 資料3-2を見まして、企業誘致の話だと思うのですが、どの自治体も企業誘致と書いてくると思うのです。皆が言ってくると固定資産税が減って意味がないかもしれませんが、この町は前面に出した方がいいと思います。なぜかという、非常にアクセスがいいということもありますしこれから将来的にも伸びる可能性を秘めている町だと思っていますので、企業誘致を積極的にアピールするというのは、言う必要のない町もあるかもしれませんが寒川町は言わなければならない町だと思っています。

(梅村委員長) 他にいかがでしょうか。

(前田委員) しごととはとても大事だと思うんです。仕事があれば子どもたちも元気になりますので、仕事が第一だなと思っています。寒川町は駅が3つもあってとってもいいんですけど、終電は早く終わるし、早朝もないデメリットが一番かなと。茅ヶ崎や平塚よりも交通の利便があって、インターも二つできましたし。まずそちらを一番にすれば誘致もできやすいだろうし、子どもたちを育てるうえでも違って来るのではないかなと思うんです。これから女性の方も仕事もとっても多くなっている中で、アンケートの中では無理と書いてあったんですが、会社の中でも保育施設があってくれば、もっといいなと思っています。女性から見たら仕事場にあればとっても子どもたちに安心してられる。残念ながらニーズが必要と感じていないという企業の方がとても多かったようで残念だなと思っています。

(梅村委員長) では、お時間もありますので議論を終了させて頂きたいと思います。その他で事務局から何かございますか。

(事務局) 本日は貴重なご意見頂きまして誠にありがとうございました。特に議題3におきましては、委員の皆様にご意見を頂くスタイルをとらせて頂きましたが、こうした会議運営が不慣れ部分もございまして、行き届かない部分も多々あったと思われそうですが、様々なご意見を頂きましたので、今後策定作業に反映していきたいと思っております。皆様の意見を聞いて我々としても足りないというのは、PR戦略でいくら何をやろうとも伝わらなければ全く意味がないのだなと十分理解しました。どう発信してそ

	<p>の優位性を出していくかというのがいかに大切なのか痛感したところがございます。会議の冒頭に議事録の承認委員を斉藤委員と一言でお話をさせて頂いたところですが、本日来られなかったため、次の委員の豊田さんをお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。</p> <p>(梅村委員長) 豊田さんよろしいでしょうか。</p> <p>(豊田 (大) 委員) はい。</p> <p>(事務局) 次回の委員会についてでございます。次回の委員かにつきましては、10月の下旬を目途に総合戦略の素案としてお示ししたいと考えているところでございます。日程が決まり次第改めてご連絡をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。事務局からは以上でございます。</p> <p>(梅村委員長) 大変長時間でございましたが、これで第2回の寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会を終了したいと思ひます。大変疲れ様でございました。</p> <p>○閉会</p>
<p>配付資料</p>	<p>資料番号1：(仮称) 寒川町 まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の各取組について</p> <p>資料番号2：人口ビジョン (案)</p> <p>資料番号3-1：国と地方における人口ビジョン・総合戦略の構成 (イメージ)</p> <p>資料番号3-2：(仮称) 寒川町 まち・ひと・しごと創生総合戦略検討資料</p> <p>別添資料1：文教大学との連携による「地方創生プロジェクト」(報告書)</p> <p>別添資料2：「寒川町の人口減少と地方創生を考える」町民ワークショップ実施報告書</p> <p>別添資料3：寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に向けた企業ヒアリング実施結果報告書</p> <p>参考資料：平成27年度人口減少対策のためのアンケート調査結果報告書</p> <p>参考資料：人口の将来展望(人口シミュレーション)の設定についての考え方</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>豊田 大知(平成27年11月13日確定)</p>